

# 臨海部の道路網の整備に関する要望

平成21年7月7日

横浜市幹線道路網建設促進協議会  
会長 藤木幸夫

都市の道路は、市民生活や経済活動を支える最も根幹となる施設である。横浜港では、平成16年4月に、国道357号横浜ベイブリッジ区間が開通し、本牧ふ頭と大黒ふ頭の連絡が強化され、都心を通せざるを得なかった港湾の物流関連交通が横浜港の上空を直接通行できることになり、さらに本年度末には新たに臨港道路(本牧出口改良)が完成する予定である。

また、従来から要望していた国道357号(本牧区間)及び南本牧連絡臨港道路が本年度補正予算において事業化されたことは、臨海部周辺の物流関連交通の効率化、環境の改善などに大きく貢献すると期待される。

横浜港が今後さらに国際競争力を高め、東アジアにおける中枢的港湾として発展していくため、港湾物流に円滑かつ的確に対応できる道路網の構築が必要不可欠と考える。

そこで国等においては、次の事項について取り組まれることを強く要請する。

一、横浜港のスーパー中枢港湾機能の一層の拡充に向け、次の臨港道路の財源確保や早期事業化に努め、臨海部道路網の一層の充実を図ること。

◆ 南本牧ふ頭連絡臨港道路

南本牧ふ頭と首都高速湾岸線を連絡する臨港道路

◆ 本牧ふ頭連絡臨港道路(仮称)

本牧ふ頭と国道357号を連絡する臨港道路

# 整備促進要望道路位置図

